

令和2年度 病虫害発生予察情報 注意報 第9号

令和2年9月15日
発表：福島県病虫害防除所

**ハスモンヨトウの誘殺数が多くなっています。
防除対策を徹底して被害の発生を防ぎましょう。**

- 1 対象作物：野菜類・花き類
- 2 病虫害：ハスモンヨトウ
- 3 対象地域：全域
- 4 発生量：やや多い

(1) 予報の根拠

- ア 県内各地に設置しているハスモンヨトウのフェロモントラップへの誘殺数が、9月上旬に7地点中5地点で平年を大きく上回りました（図1～5）。
- イ 9月中旬に浜通り北部でハスモンヨトウ幼虫の寄生を確認しています。
- ウ 仙台管区气象台が9月10日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、本種の発生を助長すると考えられます。

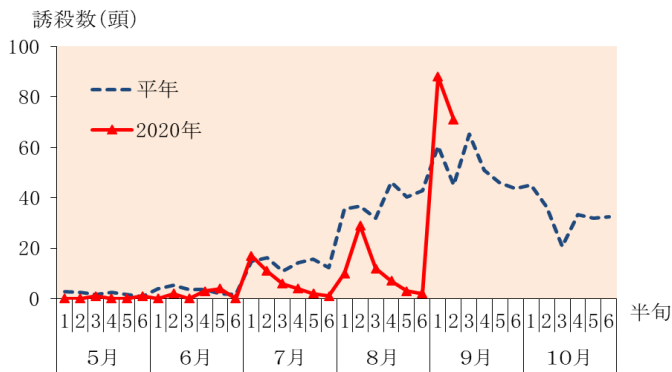


図1 フェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺状況
(伊達市保原町:イチゴ)

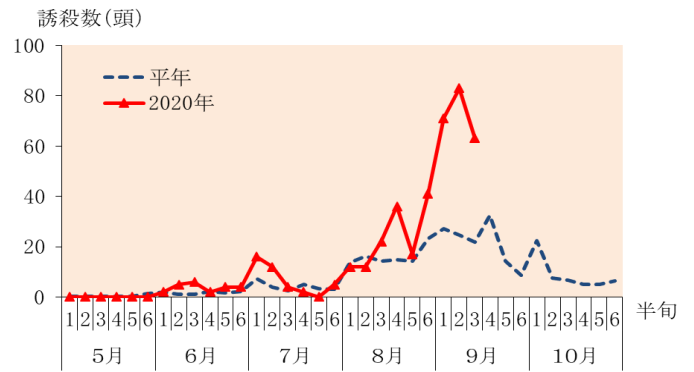


図2 フェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺状況
(中島村:キュウリ)

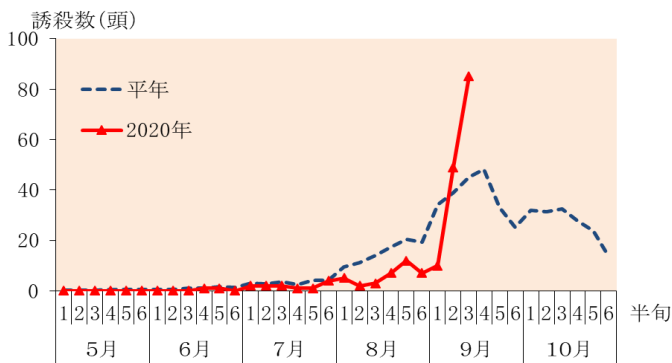


図3 フェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺状況
(棚倉町:イチゴ)

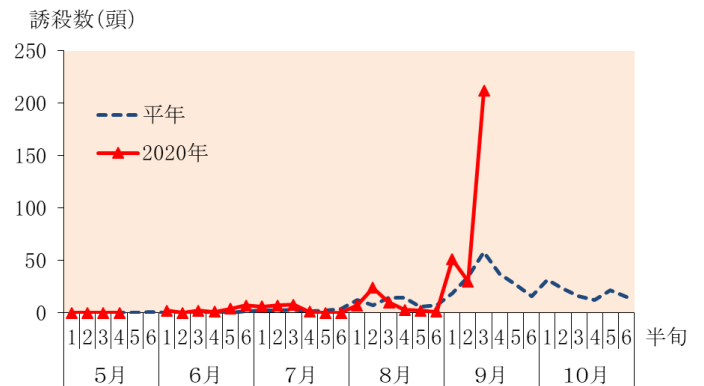


図4 フェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺状況
(会津若松市北会津:イチゴ)

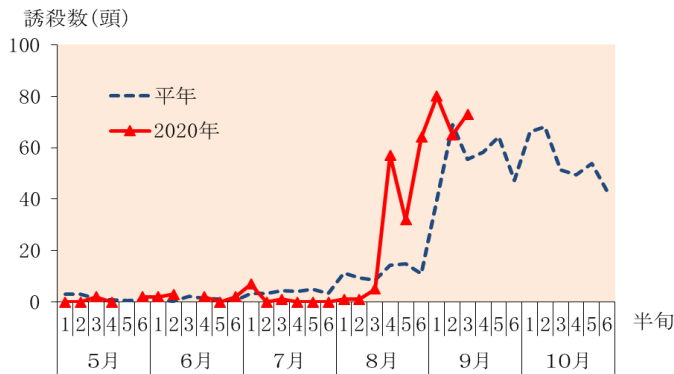


図5 フェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺状況
(相馬市南飯淵:イチゴ)
注) 平年(2010~2019年)は相馬市和田

(2) 防除対策

特に露地栽培や防虫ネット未展張の施設では幼虫による被害の拡大が予想されますので、防除対策を徹底して被害の発生を防ぎましょう。

9月15日時点で誘殺ピークがみられるため、9月下旬頃からの被害が予想されます。

- ア 本種の幼虫は広食性で、多くの農作物を加害します。本県で被害が懸念される作物は、イチゴ、トマト、キュウリ、ネギ、ハクサイ、トルコギキョウ、ストックなどです。
- イ 本種は卵塊で産卵し、若齢幼虫は集団で葉裏から表皮を残すように食害します。ほ場をよく観察し、早期発見・防除に努めてください。
- ウ 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が効きにくい傾向があるため、若齢期の幼虫が集団で寄生しているうちの防除に心掛けてください。
- エ 葉裏や株元など薬剤のかかりにくい部位にも寄生するので、丁寧に散布してください。薬剤抵抗性系統の出現を防止するため、同一系統の薬剤の連用を避けてください。
- オ 施設栽培では、開口部に4mm目合い以下の防虫ネットを設置して、成虫の飛来を防いでください。なお、防虫ネット上に産卵し、孵化した幼虫が施設内に侵入することがあるので注意してください。施設で発生した場合は、越冬し、次作の発生源となるので防除を徹底しましょう。



写真1 ハスモンヨトウ終齢幼虫



写真2 トルコギキョウでの被害(白変葉)

●情報内容への質問や要望は、福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課(病害虫防除所)まで御連絡ください。

TEL 024-958-1709 FAX 024-958-1727